

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容総論	■講師名	小野寺 美奈
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
子どもの権利を地軸として、子どもの権利を保障する保育内容についての基礎的知識・方法を習得する。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none">・幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領について内容を理解し、現在の保育において求められる目標・方法の概要をつかむ。・子どもの権利についての理解を深める。・子どもの権利を保障するための保育内容の具体的な実践方法について習得する。			
■授業方法			
講義・演習、基本的にテキストに沿って授業を進める。			
■教科書（書籍名・出版社）			
『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』北大路書房			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、提出物、試験により総合的に評価			
■実務経験			
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	第1章 生まれたときから子どもには権利がある：保育内容総論の基本		
3	第2章 子どもの育ちに驚き、保育内容との関係性を学ぶ		
4	第3章 子どもの遊びと保育内容の関係性を深める		
5	第4章 環境を通して行う保育を掘り下げる		
6	第5章 子どもの生活から保育内容を考える：保育内容の変遷と社会的背景		
7	第6章 乳児期（0, 1, 2歳児）の特性と保育内容：総合的なとらえ方		
8	第7章 幼児期（3, 4, 5歳児）の特性と保育内容		
9	第8章 子どもの育ちと学びの可視化—保育における観察・記録・評価—		
10	第9章 保育内容の多様性		
11	第10章 すべての子どもがつながりの中で育つ保育：インクルージョンの実現に向けて		
12	第11章 持続可能な社会をつくる乳幼児期の保育・教育		
13	第12章 保育内容の地平線：世界との対話		
14	終 章 子どもの権利を保障する保育者・保育内容		
15	学期末試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子ども家庭支援論	■講師名	小野寺 美奈
2 年	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
現代社会における社会福祉や家庭の多様性についてふまえた上で、子ども家庭支援の様々な方法を自ら考えながら理解する。また、子ども家庭支援において保育士が重要な役割を果たしていることを理解する。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや家庭を取り巻く多様な状況を学び、その支援の方法について考え方理解する。 ・社会保障制度の知識を獲得する。 ・現代の保育士にとって、家族の多様性をふまえて子どもや家庭を支援することが肝要であることを理解する。 			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
『子ども家庭支援論 家族の多様性とジェンダーの理解』（建帛社）			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、提出物、試験により総合的に評価する。			
■実務経験			
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション		
2	家族とは		
3	ジェンダーの視点で家族をとらえなおす		
4	男女共同参画社会と家庭における平等の具体化		
5	子ども家庭支援に関する法律・制度		
6	子育て支援サービスの機能および課題		
7	保育所による子ども家庭支援の実際		
8	子ども虐待やDVの現実と子ども家庭支援		
9	子どもの貧困と家庭支援		
10	「障がいのある子」の家族と子ども家庭支援		
11	精神障害をもつ保護者と子ども家庭支援		
12	日本の子育てをめぐる諸相と世界の子育て支援からの示唆		
13	子ども家庭支援と保育者の専門性		
14	総括		
15	学期末試験、ふりかえり		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	社会的養護 I	■講師名	相澤 隆二
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要 社会的養護の意義をとらえ、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度、体系等について理解する。併せて社会的養護の対象や形態、関係機関や関係職種等について理解する。			
■授業目的、到達目標 1、子どもの人権、権利擁護を踏まえた社会的養護の基本を理解する。2、社会的養護の制度や実施体系等について理解する。3、社会的養護の対象や形態、関係職種等について理解する。4、社会的養護の現状と課題について理解する。			
■授業方法 講義			
■教科書（書籍名・出版社） 子ども支援の基礎から学ぶ 社会的養護 I ／ 大学図書出版			
■成績評価・講義上の注意 授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。			
■実務経験 社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者 障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	社会的擁護の意義		
2	社会的擁護の歴史的変遷		
3	家庭の役割を果たす機能と社会的養護		
4	児童の権利擁護		
5	制度と法体系		
6	社会的擁護の領域と実施体系		
7	家庭擁護と施設擁護		
8	社会的擁護の専門職種		
9	施設擁護の基本		
10	施設擁護における支援の実際		
11	施設擁護におけるソーシャルワーク		
12	児童福祉施設等の運営管理		
13	専門職としての倫理の確立		
14	児童虐待防止および現状と課題		
15	定期試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育実践演習	■講師名	吉本文子
2 年 通 年	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	60 時間 講義 2 単位
■学修概要			
保育者として必要な専門的知識及び技術、総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応を多様な視点から考察する力を習得する。これらを踏まえて自己の課題を明確化し、基礎的な資質・能力の定着を図る。			
■授業目的、到達目標			
保育にかかわる領域の課題と解決への過程について関心をもつ。解決方法について考え、その根拠を述べることができる。他者の考え方を知り、より有効な解決方法を連騰することができる。			
■授業方法			
講義・演習・ディスカッション・ロールプレイ・プレゼンテーション等			
■教科書（書籍名・出版社）			
随時、資料を配布します。			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数・授業態度・リアクションペーパーの内容・レポート課題等から総合的に評価します。			
■実務経験			
幼稚園教諭、保育士としての経験、保育者養成校での指導経験、子ども学の研究等の経験を活かし、授業を行います。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション 保育実践演習で学ぶこと		
2	保育者に求められる資質能力を知る		
3	使命感や責任感、教育的愛情および倫理観		
4	職場を知る		
5	保育実践の育成①		
6	クラス担任の仕事を知る		
7	保育実践力の育成②		
8	人間関係の育ちとクラス運営		
9	保育実践力の育成③		
10	保育に関する現代的課題 (1) 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について		
11	保育に関する現代的課題 (2) 長時間保育		
12	保育に関する現代的課題 (3) 保幼小連携		
13	外国につながる子どもの保育		
14	保育実践の育成④		
15	まとめ		

16	保育現場における社会的課題
17	保護者との関係構築（1）
18	保護者との関係構築（2）
19	保育実践力の育成⑤
20	地域の子育て支援
21	保育実践の育成⑥
22	特別な支援の必要な子どもとその対応
23	安全な園生活
24	保育実践の育成⑦
25	専門性の向上
26	保育実践の育成⑧
27	自己課題を克服する取り組み
28	自分の強みを生かす取り組み
29	成長し続ける保育者になるために
30	まとめ

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	图画工作Ⅱ	■講師名	高畠潤子
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 保育園の行事（学芸会・クリスマス会・お誕生日）など必要となる小道具・衣装アイテムの創作。			
■授業目的、到達目標 ・創る行程を考えて工夫しよう ・つくった物をどう表現できるか考えよう			
■授業方法 ・実技（作品製作） ・創作のポイント。子どもに面白さを伝えるための表現方法を教える。			
■教科書（書籍名・出版社） 特になし			
■成績評価・講義上の注意 ・出席　・作品に創意工夫があるか　・表現力、プレゼンテーション力			
■実務経験 講師は、10年以上絵本作家として活躍している。作家の実績を踏まえ、絵本作り等の実務者の観点から講義を行う。 作家として著書を7冊出版。雑誌などにも寄稿。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	動物の帽子つくり 1		
2	動物の帽子からイマジネーションを広げて衣装をつくろう		
3	動物ファッションショー、小道具づくり		
4	ペーパーサートって何か		
5	好きな絵本からつくるペーパーサート		
6	製作1		
7	製作2		
8	製作3		
9	製作4		
10	演じてみよう。表現してみよう。		
11	パックン人形づくり（牛乳パック）		
12	製作1		
13	製作2		
14	演じてみよう。表現してみよう。		
15	ペーパーサート、パックン人形の発表		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	幼児体育Ⅱ	■講師名
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間 30 時間 講義 1 単位
■学修概要 幼児体育を学び理論と実技を覚え保育現場に生かせるようにする。		
■授業目的、到達目標 幼児体育検定の合格と安全な体育指導を出来るのが目的		
■授業方法 座学、実技を併用し、座学で学んだものを実技で使用する		
■教科書（書籍名・出版社） 幼児体育指導者検定2、3級テキスト		
■成績評価・講義上の注意 出席日数、試験結果、課題にて判断		
■実務経験 講師は、公益財団法人日本幼少年体育協会に3年以上携わっている。その実績を踏まえ、幼児体育の指導者の実務者の観点から講義を行う。保育現場で使用できる体育指導ができるよう導く。		
■授業計画（講義の流れ）		
1	幼児体育の必要性、どんな種類があるか	
2	幼児体育理論 発達の様相 現場での使用の仕方	
3	幼児体育理論 スキヤモンの発育曲線 現場での使用仕方	
4	理論に基づいた指導案の書き方	
5	前転、前転指導法	
6	跳び箱見本	
7	後転、後転指導法	
8	跳び箱補助、運動遊び	
9	跳び箱後ろ補助、指導案使い方から運動遊び	
10	縄指導法	
11	ボール指導法	
12	日常の道具を使う運動遊び	
13	リズム体操	
14	リズム体操の振り付け	
15	テスト	

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽IV	■講師名	前田 有輝
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
毎週、又は隔週に与えられた課題曲を集団でレッスンした後、ピアノ室にて個人レッスンを行う。与えられた課題曲は、子供達とより楽しめるような伴奏を研究・作成していく。歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するためのグループレッスンも行う。			
■授業目的、到達目標			
音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識と技術を生かし、実践できるよう演奏技術の向上を目指す。実習先での課題曲等、レパートリーの拡大を目指す。音楽遊びのオリジナルソングの作成に取り組む。			
■授業方法			
集団レッスン、個人レッスン			
■教科書（書籍名・出版社）			
改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育：教育芸術社 プリント			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。			
■実務経験			
2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、音楽Ⅲで習得したレパートリー曲の復習		
2	童謡曲、和音の練習、スリーコード伴奏、アンサンブル		
3	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
4	個人レッスン、プチテスト		
5	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
6	個人レッスン、アンサンブル		
7	課題曲合同レッスン、個人レッスン		
8	個人レッスン、プチテスト		
9	課題曲合同レッスン、個人レッスン、弾き歌い		
10	個人レッスン、弾き歌い		
11	個人レッスン、試験曲決定		
12	弾き歌いプチテスト、個人レッスン		
13	個人レッスン		
14	個人レッスン・発表		
15	試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもと言語表現	■講師名	阿部アサミ
2 年 前 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
領域「言葉」の指導の基盤として、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎知識を身に付ける。			
■授業目的、到達目標			
言葉のもつ意義と機能を知る。 言葉による感覚を豊かにする実践を身に付ける。 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を説明できる。			
■授業方法			
講義と演習を取り入れる。			
■教科書（書籍名・出版社）			
子どもの育ちを支える『子どもと言葉』 大学図書館			
■成績評価・講義上の注意			
出席、授業態度、授業の振り返りシートなどで総合的に判断する。			
■実務経験			
東京都の公立幼稚園に勤務していた際の実践と、領域「言葉」のねらい・内容を結びつけて講義する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション 言葉とはなにか、諸外国における乳幼児期の言葉の教育		
2	乳幼児期の言葉の基本 乳幼児期の言葉の発達		
3	保育内容「言葉」の歴史的変遷		
4	保育内容 領域「言葉」とは		
5	生活体験と言葉 遊びと言葉		
6	感動体験と言葉		
7	児童文化と言葉、メディアと言葉		
8	文字との出会い①		
9	文字との出会い②		
10	文字との出会い③		
11	文字との出会い④		
12	子どもの育ちを支える保育者の言葉		
13	言葉のかかわりに配慮を要する子ども		
14	幼児教育と小学校教育の接続と言葉		
15	幼児期の言葉の課題		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

<p>■科目</p>	保育実習指導III	<p>■講師名</p>	伊藤能之		
2 年 前 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間		
<p>■学修概要</p>		<p>講義</p>			
<p>施設における実習の在り方と内容を学ぶ。実習を受けるにあたり必要な知識を身に着ける。</p>					
<p>■授業目的、到達目標</p>					
<p>実習を行うにあたり、実習に必要な知識と技能を身に着け、その方法論を身に着ける。</p>					
<p>■授業方法</p>					
<p>講義</p>					
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p>					
<p>実践力がつく保育実習</p>		<p>大学図書出版</p>			
<p>■成績評価・講義上の注意</p>					
<p>出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価</p>					
<p>■実務経験</p>					
<p>講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。</p>					
<p>■授業計画（講義の流れ）</p>					
1	オリエンテーション				
2	実習の意義について				
3	これまでの実習と相関				
4	実習に必要な技能とは何か。				
5	理論と実践との相関				
6	施設実習の中身について				
7	児童養護施設について				
8	知的障害者施設について				
9	実習に必要な心構え				
10	保育者の位置づけ				
11	保育者の役割				
12	これまでの施設の歴史				
13	施設が抱えている問題点				
14	実習訪問に関して				
15	今後に生かす実習の成果について				

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	就職研究Ⅱ	■講師名	前田 有輝
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 演習 1 単位
■学修概要			
<p>保育現場で子どもと楽しめる活動内容を学ぶ。テーマに沿った課題をグループで創作、練習、発表する。</p> <p>課題を通して、指導する立場・演じる立場の両方を体験し、考察していく。歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するためのグループレッスンも行う。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで習得した知識と技術を活かし実践できるよう、演奏技術の向上を目指す。音楽遊びのオリジナルソングの作成に取り組む。リトミック伴奏法・手遊び・えかき歌作成法・合奏指導法など、子どもと音楽をつなぐ手段を習得する。</p>			
■授業方法			
個人レッスンだけでなく、グループレッスン、アンサンブルなどを交えた授業展開			
■教科書（書籍名・出版社）			
プリント			
■成績評価・講義上の注意			
授業中の課題及び実技試験の結果で成績評価を行う。			
■実務経験			
2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、音楽IVで習得したレパートリー曲の復習		
2	課題「しりとりうた」を作ろう		
3	課題 練習・考察（うた・ピアノ伴奏・ダンス振り付け）		
4	課題 発表		
5	課題 「リトミックピアノ伴奏法」		
6	課題 練習 個人レッスン グループ練習		
7	課題 個人レッスン		
8	課題 プチテスト		
9	課題 「えかきうた」を作ろう		
10	課題 練習・考察（うた・ピアノ伴奏・イラストデザイン）		
11	課題 発表		
12	指揮法 アンサンブル指導		
13	リトミック指導		
14	課題「どうぶつえんたいそう」を作ろう		
15	実技試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	情報機器の操作Ⅱ	■講師名	榎村麻里子
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位
■学修概要 パソコンを用いた文書作成、表計算、プレゼンテーション等、社会人として必要なファイル作成・管理に関する素養を高める。			
■授業目的、到達目標 Word、PowerPointの応用操作等、保育の現場で必要なパソコンスキルを向上させる。 適切な情報発信を行い、積極的にICT技術を使用することができる。			
■授業方法 講義、演習			
■教科書（書籍名・出版社） FOM出版 よくわかるWord2019&Excel2019&PowerPoint2019			
■成績評価・講義上の注意 出席日数、授業態度、制作物で総合的に評価			
■実務経験 講師は、システム会社2年間勤務後、パソコン講師として約20年の勤務経験を活かし、社会人として必要な文書作成が出来るような授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション/1年次の確認と進行方法/タイピング		
2	Word実習/ビジネス文書作成 (1) 通信文		
3	ビジネス文書作成 (2) 表作成		
4	ビジネス文書作成 (3) ポスター		
5	ビジネス文書作成 (4) ポスター		
6	Excel実習/表作成 (1) 四則演算・基礎関数		
7	Excel実習/表作成 (2) 四則演算・基礎関数		
8	Excel実習/表作成 (3) 四則演算・基礎関数		
9	Excel実習/表作成 (4) 基礎関数		
10	PowerPoint実習/スライドの作成 (1)		
11	PowerPoint実習/スライドの作成 (2)		
12	PowerPoint実習/スライドの作成 (3)		
13	PowerPoint実習/スライドの作成 (4)		
14	Office連携/Word・Excel・PowerPointの連携		
15	テスト		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

<p>■科目</p>	体育実技	<p>■講師名</p> <p style="text-align: right;">池田一穂 上原一太郎</p>
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間 30 時間 講義 1 単位
<p>■学修概要</p> <p>保育士であり体育指導員としてのスキル育成</p>		
<p>■授業目的、到達目標</p> <p>正しい見本を見せられるようになる</p>		
<p>■授業方法</p> <p>幼児体育指導者検定検定員、正課体育指導歴を活かし保育現場で使用できる体育指導ができるように導く</p>		
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p> <p>幼児体育指導者検定2、3級テキスト</p>		
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>出席日数、試験結果、課題にて判断</p>		
<p>■実務経験</p> <p>講師は、公益財団法人日本幼少年体育協会に3年以上携わっている。その実績を踏まえ、幼児体育の指導者の実務者の観点から講義を行う。保育現場で使用できる体育指導ができるように導く。</p>		
<p>■授業計画（講義の流れ）</p>		
1	見本を見せる意味	
2	見本での注意事項	
3	リズム体操の見本、注意点	
4	マット運動、見本、注意点	
5	リズム体操試験	
6	跳び箱見本	
7	マット運動試験	
8	跳び箱試験	
9	集団遊び方法	
10	幼児と児童での指導法の違い	
11	楽しませる遊びのやり方	
12	鳴子のお遊戯	
13	リボンのお遊戯	
14	試験対策	
15	試験	

授業計画（シラバス）

こども保育学科

<p>■科目</p> <p>子ども家庭福祉</p>	<p>■講師名</p> <p>小野寺美奈</p>
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)
	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要	
子どもや家庭を取り巻く現在の社会状況について見識を深めた上で、子どもに対する基本的人権の保障のあり方や、それを実現するための法律・制度・支援活動など、子ども家庭福祉に関する基礎知識を習得する。	
■授業目的、到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭福祉の理念や歴史を理解し、説明することができる。 ・子ども家庭福祉の法律・制度・支援活動について理解を深める。 ・現代社会において子ども・家庭が直面する諸課題について説明することができる。 	
■授業方法	
講義・演習	
■教科書（書籍名・出版社）	
『子ども家庭福祉—子どもと家庭を支援する—』ミネルヴァ書房	
■成績評価・講義上の注意	
出席日数、授業態度、提出物、試験により総合的に評価する。	
■実務経験	
講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。	
■授業計画（講義の流れ）	
1 オリエンテーション	
2 現代社会と子ども・家庭①	
3 現代社会と子ども・家庭②	
4 日本における子ども家庭福祉の歴史	
5 海外における子ども家庭福祉の歴史	
6 子ども家庭福祉の理念と法律	
7 児童福祉施設	
8 子ども家庭福祉サービス	
9 保育サービス	
10 困難を抱える子どもと家庭への支援① 一虐待・DVの防止と支援一	
11 困難を抱える子どもと家庭への支援② 一外国籍等の子ども・家庭への支援、貧困家庭への支援一	
12 少子化対策と子育て支援①	
13 少子化対策と子育て支援②	
14 まとめ、ふりかえり	
15 学期末試験	

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	社会福祉	■講師名	庄司 拓也
2 年 後期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
社会福分野社の専門職の一つである保育士の専門的な知識の基礎である社会福祉学を学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
保育士として必要な社会福祉学の知識を習得するとともに、社会生活を営む上での必要な社会保障制度（社会保険など）を理解し、活用できるようになることを目標とする。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
山縣文治ほか編『よくわかる社会福祉学』ミネルヴァ書房			
■成績評価・講義上の注意			
出席日数、授業態度、試験・課題で総合的に評価する。			
■実務経験			
社会福祉学の教科書を執筆した経験を活かし、要点を整理し、わかりやすい授業を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	オリエンテーション、社会福祉の基礎概念		
2	社会福祉をとりまく状況		
3	社会福祉を支える人たち		
4	社会福祉の仕組みと運営		
5	社会福祉の機関と施設		
6	社会保障①（公的扶助）		
7	社会保障②（社会保険）		
8	社会保障③（その他）		
9	社会福祉の援助と方法		
10	社会福祉の歴史と展開		
11	子ども家庭福祉		
12	高齢者福祉		
13	障害者福祉		
14	地域福祉		
15	まとめ、試験		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

<p>■科目</p>	子どもの理解と援助	<p>■講師名</p>	小野寺 美奈		
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間		
講義		1 単位			
<p>■学修概要</p> <p>子どもの実態に応じた発達や学びの把握、子どもを理解する視点、子どもを理解する方法、子どもの理解に基づく発達援助について学び理解する。</p>					
<p>■授業目的、到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育実践において、子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ②子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 					
<p>■授業方法</p> <p>講義・演習・プレゼンテーション</p>					
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p> <p>『よくわかる！保育士エクササイズ8 子どもの理解と援助 演習ブック』（ミネルヴァ書房）</p>					
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>出席日数、授業態度、提出物等により総合的に評価する。</p>					
<p>■実務経験</p> <p>講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。</p>					
<p>■授業計画（講義の流れ）</p>					
1 オリエンテーション、保育における子ども理解の意義 2 子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開 3 子どもに対する共感的理解と保育 4 子どもの生活と遊び 5 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6 子どもの集団での育ち 7 葛藤やつまづき 8 保育の環境の理解と構成 9 環境の変化や移行 10 子どもを理解するための観察・記録・省察・評価 11 職員間の対話 12 保護者との情報共有 13 発達の課題に応じた援助と関わり 14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援					

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育の計画と評価	■講師名	濱本潤毅
2 年 後 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
子ども理解に基づく保育過程（計画・実践・評価・改善）の全体構造を把握し、保育実践に必要な計画及び評価について学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
保育計画の意義と重要性を理解し、PDCAサイクルに基づいた計画の立案や実践後の評価の仕方について理解する。			
■授業方法			
基礎的な内容について講義をした後、グループワークや関連教材を通して理解を深める。			
■教科書（書籍名・出版社）			
教科書は使用せず、適宜プリント等を配布する。			
■成績評価・講義上の注意			
出席・授業に参加する姿勢・リアクションペーパーにより総合的に評価する。			
■実務経験			
学童保育から高校の授業まで幅広い年齢層の教育実践に携わった経験から、乳幼児も含めた子ども全般の指導を念頭に置いて講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	導入		
2	保育における計画と目標		
3	保育におけるカリキュラム		
4	子ども理解とPDCAサイクル		
5	保育における全体計画		
6	長期的な指導計画の作成①		
7	長期的な指導計画の作成②		
8	短期的な指導計画の作成①		
9	短期的な指導計画の作成②		
10	指導計画上の注意点①		
11	指導計画上の注意点②		
12	保育の評価と改善①		
13	保育の評価と改善②		
14	保育の評価と改善③		
15	全体のまとめ		

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	社会的養護Ⅱ	■講師名	相澤 隆二		
2 年 後 期	15 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間		
■学修概要		講義 1 単位			
子どもの理解を踏まえた社会的養護における基本的な内容を通して、施設養護及び家庭養護の実際について学び、社会的養護における計画や記録、相談援助方法や技術について理解する。また、社会的養護における虐待防止と家庭支援、子どもの権利擁護について理解する。					
■授業目的、到達目標					
1、社会的養護の基本的な内容について具体的に理解する。2、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。3、社会的養護における計画・記録・評価および相談援助の方法・技術について理解する。4、社会的養護における現状と課題を理解する。					
■授業方法					
講義、演習					
■教科書（書籍名・出版社）					
実践研究や事例から学ぶ 社会的養護Ⅱ／大学図書出版					
■成績評価・講義上の注意					
授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。					
■実務経験					
社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者 障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	子どもの理解を踏まえた社会的養護				
2	社会的養護における専門職の倫理および責務				
3	施設擁護の実施体制と実際				
4	福祉型障害児施設における施設養護の内容				
5	医療型障害児施設における施設養護の内容				
6	施設養護の実施体系と実際				
7	家庭擁護の実施体系と実際				
8	個別支援計画の作成について				
9	日常生活支援について				
10	治療的支援と療育的支援について				
11	自立支援について				
12	記録の意義と実践				
13	専門性に関わる知識・技能について				
14	ソーシャルワークに関わる知識・技術について				
15	定期試験				

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子育て支援	■講師名	伊藤能之		
2 年 後 期	30 コマ (1コマ90分授業)	総時間	30 時間 講義 1 単位		
■学修概要					
現在の保育実践において、子育て支援の現実について、その内容を法制度の問題を含めて理解する。現状を理解しつつ、課題を発見し、適切な対応について学ぶ。					
■授業目的、到達目標					
現在の日本における子育て支援の現実的問題を理解し、保育者としての対応の仕方を理解する。また、社会問題となりつつある少子高齢化社会の実際にについても理解する。					
■授業方法					
講義					
■教科書（書籍名・出版社）					
保育の学びを深める子育て支援の実際		大学図書出版			
■成績評価・講義上の注意					
出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価					
■実務経験					
講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	オリエンテーション				
2	現代社会の子どもを取り巻く状況				
3	子育て支援制度				
4	次世代育成制度とは何か				
5	少子化対策の実際				
6	保育における相談援助				
7	気になる子どもへの対応				
8	保育と自立との関連				
9	これから子育てにおける食育とは何か				
10	子どもたちの健康について				
11	保育所における子育て支援の実際				
12	地域における子育て支援の実際				
13	諸外国における子育て支援				
14	現代の子育て支援の課題について				
15	まとめ				